1937年7月16日　―主張―　李上等兵の戰死

　一は、の○○で々しくした。このは二千萬のにすべからざるをきらせた。のがぜられてにをせるもだに々はとしていかながらない。それはのであるためでもあらう。はいのにつてつた々のにつては、りにきいでありであつたせゐかもらぬ、『ありがたう、ありがたう』をりへすよりにがないのだ。

　にもでのもあり、のもあつてにられてるのであるが、のとしてのはをもつてとする。じくのでありながら、にいての四の一をめながら、のきにつてもののなかつた々のまなさがのなるによつて、かされたようながする。よりにはるは々のものなのだ。はそのによつてののいとほしきとなつたのであるが、に六百萬ののいとほしきとなつたのだ。

　々はの二つのをてなければならぬ。一つはわがをくてて、のとしてげまつるで、の一つはののためにすることである。この二つのをたすことにより、々はにたる[に]ぢないになるであらう。

　がにもにもであつたことをかされて、一しさとさとをずる、ふだんのくもしいであつたなればこそましく『にして』々しくふことがたのだと々はへられるのである。

　『、ありがたう！』とよをへてしようではないか。